

焦点は総選挙から連立交渉に ～今後のNZドルの見通し～

9月23日に投開票されたニュージーランドの総選挙(一院制、任期3年、定数120)は、混戦の末、現与党・国民党(中道右派)が58議席を獲得し勝利しました。しかし、野党第一党である労働党(中道左派)の躍進(選挙前32議席から今回45議席獲得)により国民党は定数の過半数に満たなかったため、政権は維持するものの連立政権となる模様です。新たな連立の候補となるニュージーランド・ファースト党(保守・ポピュリズム)とは、移民受入などの政策が異なることなどから、交渉の先行きが注目されます。

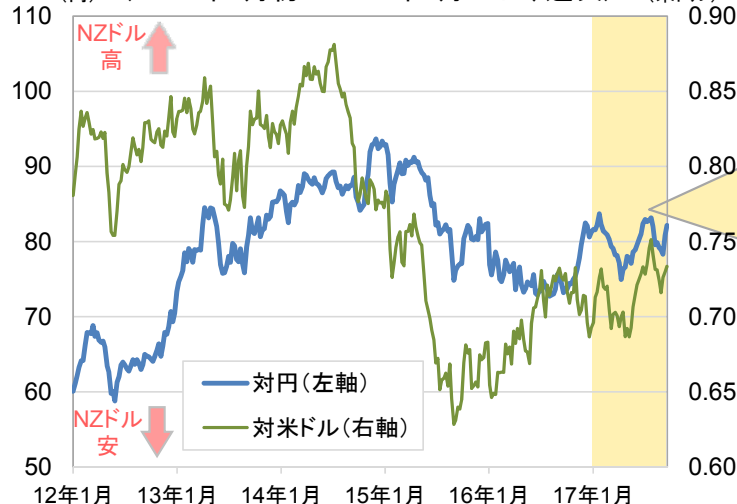
今回の総選挙では、8月に、労働党の党首に若手女性政治家のアーダーン氏が就任すると、同党の支持率が急上昇し、国民党の支持率と拮抗する状況が選挙日直前まで続きました。労働党は、これまでの金融政策の変更や、TPP(環太平洋経済連携協定)参加継続を示しながらも新たな要求を持ち出すなど、現政権と異なる政策を打ち出していたため、市場では同国の堅調な経済成長に影響を及ぼすことなどが懸念され、労働党の支持率が国民党を上回るとニュージーランドドル(NZドル)は下落しました。一方、現首相のイングリッシュ国民党首は、これまで財務大臣や副首相として、リーマン・ショックやカンタベリー震災などの危機から同国経済を回復させた人物であり、市場の信頼は厚く、国民党の支持率が労働党を上回るとNZドルは反発しました。このように、総選挙を巡る不透明感が波乱要因のひとつとなっていました。

同国経済については、底堅さをみせており、実質GDP成長率(4-6月期)は、前期比+0.8%と加速しました。内訳をみると、輸出(同+5.2%)と家計消費(同+0.9%)が成長をけん引しており、景気の再加速を期待させるものでした。また、主な輸出品目である乳製品の価格は上昇傾向となっています。

国民党の政策が活かされる形での政権樹立となれば、市場心理の落ち着きにつながり、堅調な経済を背景に、先進国高金利通貨としての需要が再度高まると期待されます。

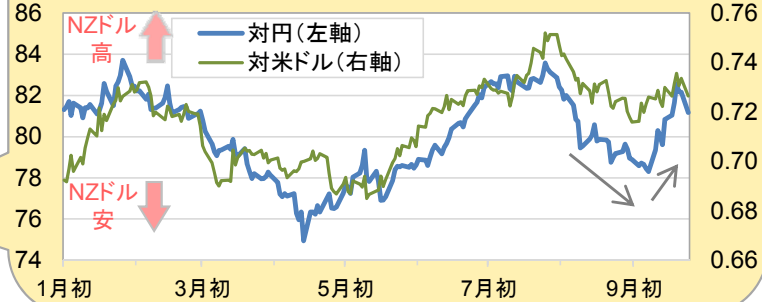
2012年初来のNZドルの推移

(円) (2012年1月初～2017年9月22日、週次) (米ドル)



2017年初来のNZドルの推移

(円) (2017年1月初～2017年9月25日、日次) (米ドル)



2017年初来の利回り差*の推移

(%) (2017年1月初～2017年9月25日、日次)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。